

鹿児島島の岩石・化石② **桜島昭和火口58年ぶりの噴火** 地質担当 桑水流淳二

2006年6月4日、桜島の有村溶岩展望所で自然調査をしていたときです。午前11時24分、桜島南岳付近から噴煙が上がっているのに気づきました。しかし、「噴煙が上がる位置が南岳にしては低いのでは」と思い、火口がよく見える黒神町の地獄河原とよばれる所に移動しました。

ここはとても静かな場所のため、噴煙とともにゴーッと鳴動する音も聞こえました。その時撮影したのが右の写真で、南岳の東側にある昭和火口から噴煙が上がっていることが確認できました。

昭和火口は、1946(昭和21年)年の大噴火でできた火口で、それ以降は1948年に小規

模な噴火があっただけで、今回の噴火は58年ぶりの記録となります。

桜島は現在、地下のマグマだまりに、大正三年の大噴火のときに流出したマグマの8割が回復したと推定されています。今後、活動が活発化することも考えられることから、注意深く観測を続ける必要があります。



昭和火口から上がる噴煙
6月4日11時59分、黒神町から

鹿児島島の昆虫② **クワガタムシのメスの見分け方** 昆虫担当 中峯浩司

鹿児島県には21種のクワガタムシが生息しています。今回は、県本土に生息する中型～大型のクワガタムシのメスの見分け方を紹介します。



25～41mm. 平地～低山地

ヒラタクワガタ



22～29mm. 平地～低山地

コクワガタ



14～20mm

低山地～山地

スジクワガタ



34～43mm

県内ではまれ

オオクワガタ



25～37mm. 低地～低山地

ノギリクワガタ



25～40mm. 低山地～山地

ミヤマクワガタ



25～38mm

霧島や紫尾山などの山地

アカアシクワガタ

クワガタムシはクヌギ、コナラ、ハルニレ、タブなどの樹液を好みます。夜間、灯りに集まる習性もあるので、外灯や自動販売機のまわりもチェックしてみましょう。夏休みに入る頃が活動のピークです。